

教科名	地歴	科目	日本史演習（特進）	単位	4時間
-----	----	----	-----------	----	-----

1. 教科書および副教材・参考書

教科書・資料集：『詳説日本史B』（山川出版社）・『詳説日本史図録』（山川出版社）
 参考書：授業プリント冊子・自分の学習用テキスト・『日本史B用語集』（山川出版社）

2. 授業の目標および内容

問題演習を主に行う授業です。主として教員が準備するプリントを教材とする。

1学期：基礎力養成を軸に、次の3つの観点で授業を進めていく。

- 1 問題演習 基礎問題・共通テストレベルの問題を解いて、力を付ける
 「原始・古代～中世」を2周する(1次試験まで)
 「近世」を含めた内容を2周する(2次試験まで)
- 2 文化史 授業プリントを配布 授業後には私大の問題演習(課題)を配布
 桃山・寛永期の文化(1次試験) 元禄・宝暦天明・化政文化(2次試験)
- 3 課題解決学習 難関私大や国公立2次の論述問題に挑戦する(計4回)
 宿題として提出→私の確認後に返却しペアワークを実施

2学期：夏休みの基礎力養成期間を経て、よりレベルの高い入試問題演習を行う。

- 1 問題演習 難関大レベルに対応するための実力養成に努める
 近代史・現代史も含む全範囲を2周する(1次試験まで)
 難関私立大学の問題を解いて解説を熟読する(2次試験まで)
- 2 文化史 文明開化・明治期(1次試験) 大衆文化・戦時・戦後の文化(2次試験)
 授業プリントを配布 授業後には私大の問題演習(課題)を配布する
- 3 課題解決学習 難関私大や国公立2次の論述問題に挑戦する(計4回)
 宿題として提出→私の確認後に返却しペアワークを実施

【この授業のポイント】

日本史を受験科目として選択した以上、他教科とのバランスを考えながらも、どのくらいまで点数を伸ばさねばならないのか、また1年後にどのような力を必要としているのかをイメージすべきである。すなわち、「自己と志望校の受験科目との対話」をし続けることが求められる。受験科目として日本史そのものに価値を与えるのは私にもできる。しかし、歴史を学び、歴史に学ぶことを自己内面化することができるのは、他でもないあなたがた自身だけなのである。

3. 試験について

	1学期		2学期		3学期
定期試験	一次 5月	二次 7月	一次 10月	二次 12月	なし
学力試験	第1回 6月		第2回 9月		なし

4. 内容・難易度について

①定期試験：100点満点で出題。出題内容は上記の通り、授業で学んだ範囲に絞る。関連する初見史料問題や論述問題も出題し、学習内容の習熟度を確認する。

②学力試験：日本史選択・日本史演習の範囲をそれぞれ50点分出題する。

5. 課題・補習について

文化史の補足や、授業で扱い切れなかった問題を課題とする。また、課題解決学習のために比較的手間のかかる課題を課す。その目的は、歴史が概念知としてとらえることで、論述力や本質の理解力を高め、受験に対応するためである。自覚を持ち学習がなされることを期待する。

6. 評価の視点

1次試験、2次試験の点数をもとに、授業態度や提出物等を勘案して評価する。

7. 授業計画

学期	単 元	学 習 内 容	備 考
1	1次試験まで 原始・古代～中世の問題 演習 桃山文化・寛永期の文化 課題解決学習 2次試験まで 「近世」を含めた内容の 問題演習 元禄文化・宝暦天明期の 文化・化政文化 課題解決学習	<基礎基本の力の定着> 基礎問題→共通テストレベルの問題 1授業につき1題準備→宿題なし 文化史プリントのポイントをチェック→宿題有 難関私大や国公立2次の論述問題に挑戦 →宿題として提出→返却後ペアワーク 「近世」は基礎問題・他は私大標準レベル 1授業につき1題準備→宿題なし 文化史プリントのポイントをチェック→宿題有 ※1次試験までと同様	主にプリントを 教材とする。 必要に応じて用 語集やテキス ト、資料集を参 照すること。
2	1次試験まで 近現代史を含む全範囲 文明開化・明治期 課題解決学習 2次試験まで 難関私立大学の問題 大衆文化・戦中戦後の文 化 課題解決学習	<難関大レベルの実力養成> 近現代は基本的な問題 実力を測る→宿題なし 文化史プリントのポイントをチェック→宿題有 ※1学期と同様 大学の過去問に取り組む 文化史プリントのポイントをチェック→宿題有 ※1学期と同様	主にプリントを 教材とする。 必要に応じて用 語集やテキス ト、資料集を参 照すること。